

紫 (むらさき) 紫草から貝紫まで

竹内 淳子 著

古来高貴なる色とされてきた紫は、いまや絶滅危惧種となった紫草（ムラサキ）の根から抽出される染料によって、あるいは貝類の鰓下腺（パープル腺）液によって染められた。その技法を受け継ぐ人々、復元に力をつくす人々を各地にたずね、華岡清洲と紫雲膏、助六の伊達鉢巻などの話題から、古典文学における「紫ゆかりの物語」にもおよぶ。伝統の色を求めて全国をめぐった「むらさき紀行」。



■ 主要目次

紫草を栽培し、雪中に染める／江戸末期から眠っていた紫根染の復元／柿生の里の草木染工房／岩泉の南部紫根染は先染の編織り／消えてしまった鹿角花輪の紫根染／武蔵野に幻の紫草をたずねて（Ⅰ）（Ⅱ）／紫草は「絶滅危惧種」指定／薬草園の紫草栽培／武蔵丘陵自然公園の紫草／たった一人で紫草を栽培し続ける人／華岡清洲創出の紫雲膏と薬玉／助六の伊達鉢巻／人の心を捉える天然染料／合成染料の透明な美しさ／「紫」ゆかりの物語／王朝文化の紫の雅び／『枕草子』に見る色彩の世界／紫綬褒章の源をたずねて／貝紫染と海女の暮らし／吉野ヶ里遺跡の貝紫染

ISBN978-4-588-21481-3 C0320 四六判上製／324頁 定価 3150円(本体 3,000円+税)

著者略歴 竹内淳子（たけうち・じゅんこ）東京に生まれる。現・大妻女子大学卒業。同校助手となり、岩松マス先生（被服学）、瀬川清子先生（民俗学）に師事。民俗学者（日本民俗学会会員、「ものと人間の文化を研究する会」主宰）。著書に『藍』Ⅰ・Ⅱ、『草木布』Ⅰ・Ⅱ、『紅花』（以上、法政大学出版社）、『民芸の旅』『現代の工芸』（保育社）、『木綿の旅』（駸々堂）、『織りと染めもの』（ぎょうせい）、『工芸家になるには』（ぺりかん社）、『工芸』（近藤出版社、共著）、『備前』（保育社、共著）ほか多数。

■ 竹内淳子／既刊（法政大学出版社刊／価格は税別）

藍 (あい) Ⅰ	風土が生んだ色	ISBN978-4-588-20651-1	3200円
藍 (あい) Ⅱ	風土が生んだ色	ISBN978-4-588-20652-8	3200円
草木布 (そうもくふ) Ⅰ		ISBN978-4-588-20781-5	3000円
草木布 (そうもくふ) Ⅱ		ISBN978-4-588-20782-2	2400円
紅花 (べにばな)		ISBN978-4-588-21211-6	3400円

